

証券コード：9179

第47期 ビジネスレポート

2012年4月1日 ≫ 2013年3月31日



ほっかいどう丸

川崎近海汽船株式会社

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、当社は2013年3月31日をもって、第47期を終了いたしました。
ここにビジネスレポートをお届けし、その概況等につきまして
ご報告させていただきますので、ご高覧のほどお願い申し上げます。
株主の皆様には引き続き変わらぬご支援を
賜りますようお願い申し上げます。

2013年6月

CONTENTS

株主の皆様へ	1
財務ハイライト	2
トップインタビュー	3
部門別営業概況	5
財務情報（連結財務諸表）	7
財務情報（個別財務諸表）	9
トピックス	10
拠点紹介 苫小牧支店	11
株式の状況	13
会社概要	14
株主メモ	裏表紙

代表取締役社長

石井繁礼



財務ハイライト

2013年3月期の業績結果

連結業績

売上高	424億62百万円(前期比+ 2.1%)
営業利益	17億61百万円(前期比+ 3.1%)
経常利益	16億46百万円(前期比+ 3.8%)
当期純利益	10億72百万円(前期比+89.2%)

連結財政状態

総資産	449億95百万円
純資産	217億69百万円

連結キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フロー	46億53百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△99億58百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	51億52百万円

年間配当金

1株当たり配当 8.0円(前期比+1.0円)

2014年3月期の業績予想

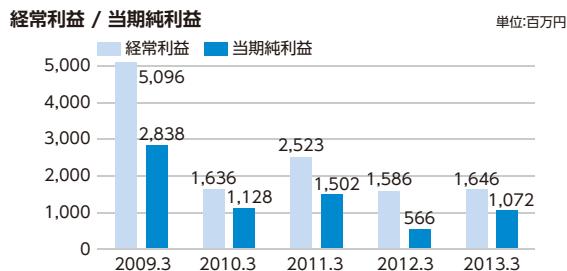
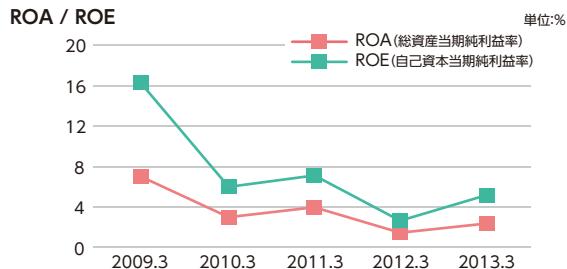
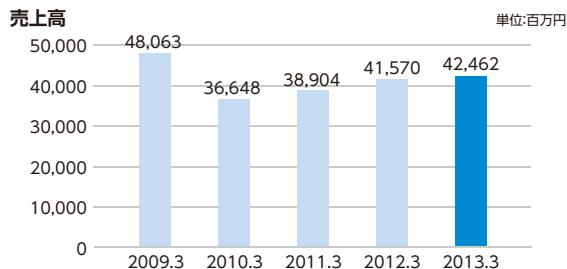
連結業績

	第1・第2四半期 累計	通期
売上高	218.0億円	435.0億円
営業利益	8.0億円	17.5億円
経常利益	7.0億円	16.0億円
当期純利益	4.0億円	10.0億円

(通期の円ドル為替レート想定 1ドル=90円)

年間配当金

1株当たり配当 8.0円を予定



トップインタビュー

当期の業績について教えてください。

当期における日本経済は、復興需要や公共投資による積極的な景気回復に向けた動きが見られましたが、年の半ばには世界的な経済成長の鈍化懸念から輸出量は減少し、国内でもエコカー補助金の終了から自動車販売を中心に個人消費が停滞するなど先行き不透明な状況が続きました。しかし、昨年12月には新政権が発足し、大胆な金融緩和政策の期待感から、急速な円安や株高が進行し、企業を取り巻く経営環境に持ち直しの兆しが見られました。

海運業界においては、外航海運は世界経済の停滞感を背景に海上輸送量は下降の兆しが見られ、新造船の大量竣工による船腹需給ギャップの拡大も相まって、海運市況は低水準で推移しました。一方、内航海運は雑貨輸送量、原材料輸送量ともに比較的堅調に推移しましたが、燃料油価格の高止まり傾向が続き、収支の圧迫要因となりました。

こうした情勢下、当社は顧客ニーズに的確に対応しながら、近海部門、内航部門の各部門に亘りきめ細かな営業活動と効率的な配船、諸経費の節減に努めました。



この結果、当期の売上高は424億62百万円となり、前期に比べて2.1%の増収となりました。営業利益は17億61百万円となり前期に比べて3.1%の増益、経常利益は16億46百万円となり3.8%の増益、当期純利益は10億72百万円となり89.2%の増益となりました。

中期的な経営戦略と対処すべき課題についてお聞かせください。

日本経済は昨年末の新政権誕生により、アベノミクスへの期待感から一挙に円相場が下落し、円安の恩恵により輸出企業を中心に景気回復の兆しが見られますが、一方で原材料価格の上昇によるコストの増加が予想されるなど、先行き不透明な状況が続くと予想されます。当社の経営環境も、近海部門の輸出貨物の増加、内航部門の消費税増税前の耐久消費財の駆け込み需要による国内荷動きの増加が期待されるものの、燃料油価格の上昇で収益を圧迫される懸念があり、依然として厳しい状況が続くものと見ています。

こうした状況下、コスト削減に努めながら引き続き安全運航と効率的な配船を行い、顧客ニーズと中長期的な市場動向を見極め、経済構造の変化に対応してまいります。また、新たな事業分野にも積極的に取り組み、さらなる収益の拡大を図ります。

各事業セグメントの今後の課題と取り組みについては次のとおりです。

近海部門

バルク輸送では、船隊整備を進め25,000重量トンバルカー[※]と28,000重量トンバルカーを本年5月に続き7月にも投入します。今後も顧客ニーズに応じた競争力ある船腹提供を心がけ、新規市場への業容拡大と安定的な収益体質の構築を図ります。

木材輸送と鋼材・雑貨輸送では、船腹量の適正化と運航コストの削減を図るとともに、競争力を高めるべく、きめ細かい事業運営の構築に取り組んでまいります。

そうしたなか、本年5月より新たにインドネシア向け鋼材輸送をスタートいたしました。併せて、市況に応じて東南

[※]バルカー：梱包されていないセメント、石炭などのばら積み貨物を船倉に入れて輸送する船

アジアに展開する輸送船の船型をより大きなものへと代替していきます。

内航部門

不定期船輸送では、既存の顧客への安定輸送を維持しながら、新規顧客および新規貨物の開拓を積極的に行い、市況や荷主の動向に合わせた適正船腹の確保に努めるとともに、各専用船の入れ替えのタイミングを的確に判断してまいります。

定期船輸送では、北関東自動車道などの高速道路の利便性を活かして、北海道―関東―九州間の輸送量拡大を進めるため、新造代替船への切り替えを検討してまいります。

八戸―苫小牧フェリー航路では、引き続き4隻運航体制を堅持し、安全、安定輸送に努めてまいります。また、本年6月末に“べが”の代替船として、客室設備を拡充した最新鋭船“シルバーエイト”を投入し、さらなる乗用車および旅客の獲得を図ります。

当期の配当金につきましては、1株当たり4円の間配当を実施いたしました。期末配当も4円とし、年間配当は8円となりました。

次期(第48期・2014年3月期)の業績見通しについてお聞かせください。

世界経済の緩やかな回復が予想されるなか、当社を取り巻く事業環境は新造船の供給圧力による市況回復の遅れから、引き続き厳しい状況になると考えています。

次期の業績につきましては、売上高435億円、営業利益17億500万円、経常利益16億円、当期純利益10億円を見込んでおります。

次期(2014年3月期)の配当金につきましては、当社の財政状況および通期の業績見通しなどを勘案し、年間配当金は1株当たり8円(うち中間配当金は1株当たり4円)を予定しております。

部門別の見通しは次のとおりです。

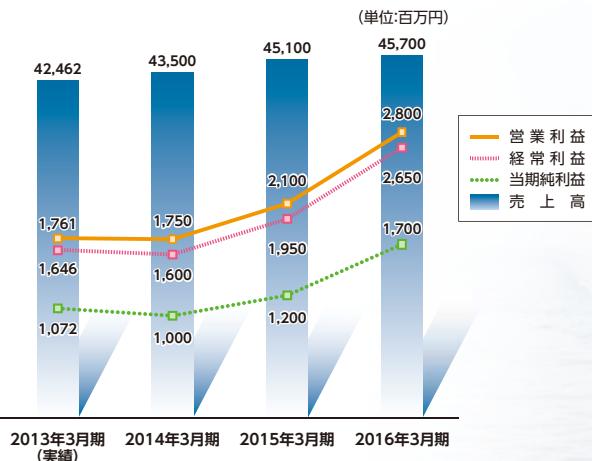
近海部門について、バルク輸送では、日本国内の電力需要への対応から石炭の輸送量が堅調に推移する見通しです。木材輸送や鋼材・雑貨輸送では、船腹需給ギャップにより厳しい状況が予想されることから、船腹量の適正化と運航コスト削減により収益力の向上を図ってまいります。

内航部門では、円安にともなう燃料費高が予想されるものの、専用船や国内RORO船定期航路では、安定した荷動きを見込んでおります。フェリー輸送では新造船を投入することにより、乗用車と旅客のさらなる獲得を図ってまいります。

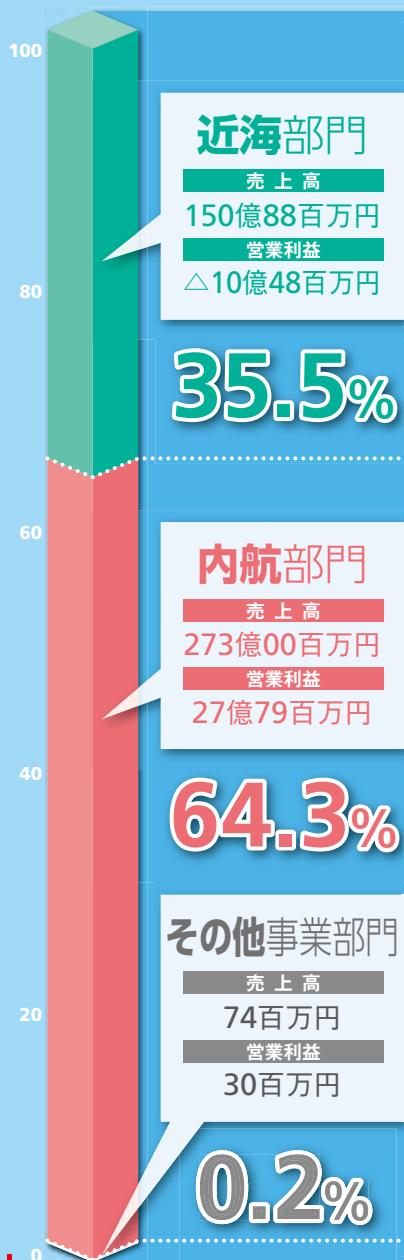
こうした状況下、当社ではその事業を社会的に重要なインフラの一環と考え、早期における運航船代替等を行い、より一層の安全運航を心がけてまいります。また、燃料効率の高いエンジンを搭載した船へ代替することでCO₂排出を抑えるなど、環境保全に対しても積極的に取り組んでまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらないご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年度中期経営計画の数値



部門別営業概況



バルク輸送

バルク輸送では、日本向け石炭は期初に取り決めた年度契約により、安定的な輸送量を確保しました。

木材輸送

木材輸送では、中国向け原木が堅調な輸送量となり、マレーシア積み日本向け合板も東日本大震災の復興需要等により前期を上回る輸送量を確保しましたが、チップ輸送では製紙メーカーの減産によるチップ船の船腹過剰により市況は低迷しました。

32 隻

MARINE VICTOR/GLORIOUS EARTH/
TROPICAL VENUS/CHIKUSA 他

不定期船輸送

9 隻

JP TSUBAKI/美津川丸/須寿川丸 他

不定期船輸送では、石灰石、石炭の各専用船は年間を通して概ね安定稼働を維持しましたが、小型貨物船は荷動きの低迷が続き、これに対処するため所有船1隻を売船しました。一方、本年2月には電力会社向け石炭輸送専用船“やまさくら”を新造投入しました。



やまさくら

フェリー輸送

4 隻

シルバーエイト/シルバークィーン/ベにりあ

八戸―苫小牧のフェリー航路では、被災した八戸港の防波堤の復旧が順調に進んだなか、昨年4月に大型新造船“シルバープリンセス”を投入した効果により、トラック輸送量が農水産品、食料工業品を中心に増加しました。また、同時期に実施したダイヤ改正との相乗効果もあり、乗用車、旅客数も増加しました。



シルバープリンセス

鋼材・雑貨輸送

鋼材・雑貨輸送では、タイ向け自動車用鋼板の輸送量は前期並みでしたが、香港・海峽地向け輸送量は減少しました。



GLORIOUS FUTURE



MARINE STAR

8 隻

ほっかいどう丸／ほくれん丸／第二ほくれん丸／南王丸 他

定期船輸送

定期船輸送では、大宗貨物の紙製品は需要の低下により全体的には減少し、また、北海道地区における農産品についても大幅な伸びはなく緩やかな荷動きとなりましたが、積極的な営業活動を行い、また本年2月に常陸那珂―苫小牧航路に省エネ型新造船“ほっかいどう丸”を代替投入した効果により前期を上回る輸送量を確保しました。



神川丸



財務情報 (連結財務諸表)

連結貸借対照表

(単位：千円)

資産の部	第47期 2013年3月31日現在	第46期 2012年3月31日現在	比較増減
流動資産	10,863,270	10,586,644	276,626
現金及び預金	768,978	1,001,274	△232,296
受取手形及び営業未収入金	5,255,768	5,224,184	31,584
原材料及び貯蔵品	971,233	917,232	54,001
繰延税金資産	63,398	52,959	10,439
短期貸付金	2,286,000	2,191,000	95,000
未収還付法人税等	102,809	283,160	△180,351
その他	1,420,782	926,691	494,091
貸倒引当金	△5,700	△9,859	4,159
固定資産	34,132,577	28,040,814	6,091,763
(有形固定資産)	(32,646,368)	(26,703,309)	(5,943,059)
船舶	30,655,596	19,905,722	10,749,874
建物及び構築物	449,722	474,431	△24,709
土地	1,051,895	1,051,895	0
建設仮勘定	433,430	5,193,719	△4,760,289
その他	55,724	77,541	△21,817
(無形固定資産)	(106,162)	(95,562)	(10,600)
(投資その他の資産)	(1,380,047)	(1,241,942)	(138,105)
投資有価証券	656,218	589,914	66,304
長期貸付金	150,624	157,055	△6,431
繰延税金資産	63,151	54,084	9,067
敷金及び保証金	187,627	185,390	2,237
その他	343,389	278,452	64,937
貸倒引当金	△20,964	△22,954	1,990
資産合計	44,995,848	38,627,458	6,368,390

(単位：千円)

負債の部	第47期 2013年3月31日現在	第46期 2012年3月31日現在	比較増減
流動負債	7,694,392	9,428,916	△1,734,524
支払手形及び営業未払金	3,262,546	3,189,184	73,362
短期借入金	2,975,415	4,124,101	△1,148,686
未払法人税等	16,706	15,635	1,071
賞与引当金	173,295	175,053	△1,758
役員賞与引当金	42,000	44,000	△2,000
災害損失引当金	1,523	1,523	0
その他	1,222,905	1,879,416	△656,511
固定負債	15,531,631	8,369,517	7,162,114
長期借入金	13,611,650	6,916,652	6,694,998
繰延税金負債	1,084,367	342,674	741,693
再評価に係る繰延税金負債	77,645	77,645	0
退職給付引当金	133,612	120,056	13,556
役員退職慰労引当金	388,288	431,346	△43,058
特別修繕引当金	236,067	479,825	△243,758
その他	—	1,316	△1,316
負債合計	23,226,024	17,798,433	5,427,591

(単位：千円)

純資産の部	第47期 2013年3月31日現在	第46期 2012年3月31日現在	比較増減
株主資本	22,226,334	21,374,313	852,021
資本金	2,368,650	2,368,650	0
資本剰余金	1,248,849	1,248,849	0
利益剰余金	18,636,341	17,784,278	852,063
自己株式	△27,505	△27,464	△41
その他の包括利益累計額	△456,802	△545,288	88,486
その他有価証券評価差額金	133,568	55,507	78,061
繰延ヘッジ損益	—	△1,316	1,316
土地再評価差額金	△588,700	△588,700	0
為替換算調整勘定	△1,669	△10,777	9,108
少数株主持分	291	—	291
純資産合計	21,769,823	20,829,025	940,798
負債純資産合計	44,995,848	38,627,458	6,368,390

連結損益計算書

(単位：千円)

	第47期		第46期		比較増減
	自 2012年4月1日 至 2013年3月31日	自 2012年4月1日 至 2013年3月31日	自 2011年4月1日 至 2012年3月31日	自 2011年4月1日 至 2012年3月31日	
売上高	42,462,812	41,570,134	892,678		
売上原価	37,091,938	36,243,972	847,966		
売上総利益	5,370,873	5,326,161	44,712		
販売費及び一般管理費	3,609,399	3,617,582	△8,183		
営業利益	1,761,473	1,708,579	52,894		
営業外収益					
受取利息	13,801	14,519	△718		
受取配当金	14,938	17,547	△2,609		
為替差益	52,446	—	52,446		
受取保険金	—	5,247	△5,247		
その他	19,715	12,834	6,881		
(営業外収益合計)	(100,901)	(50,148)	(50,753)		
営業外費用					
支払利息	189,180	151,555	37,625		
為替差損	—	13,007	△13,007		
その他	26,776	7,781	18,995		
(営業外費用合計)	(215,956)	(172,343)	(43,613)		
経常利益	1,646,418	1,586,384	60,034		
特別利益					
固定資産売却益	671,925	—	671,925		
貸倒引当金戻入額	—	352,700	△352,700		
(特別利益合計)	(671,925)	(352,700)	(319,225)		
特別損失					
減損損失	494,262	887,203	△392,941		
投資有価証券評価損	—	47,906	△47,906		
会員権評価損	—	15,400	△15,400		
(特別損失合計)	(494,262)	(950,509)	(△456,247)		
税金等調整前当期純利益	1,824,082	988,575	835,507		
法人税、住民税及び事業税	25,321	290,665	△265,344		
法人税等調整額	726,210	131,107	595,103		
(法人税等合計)	(751,532)	(421,772)	(329,760)		
少数株主損益調整前当期純利益	1,072,549	566,802	505,747		
少数株主利益	291	—	291		
当期純利益	1,072,258	566,802	505,456		

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	第47期		第46期		比較増減
	自 2012年4月1日 至 2013年3月31日	自 2012年4月1日 至 2013年3月31日	自 2011年4月1日 至 2012年3月31日	自 2011年4月1日 至 2012年3月31日	
少数株主損益調整前当期純利益	1,072,549	566,802	505,747		
その他の包括利益	88,485	△9,963	98,448		
その他有価証券評価差額金	78,060	△24,791	102,851		
繰延ヘッジ損益	1,316	5,982	△4,666		
土地再評価差額金	—	11,444	△11,444		
為替換算調整勘定	9,107	△2,600	11,707		
包括利益	1,161,035	556,838	604,197		
(内訳)					
親会社株主に係る包括利益	1,160,744	556,838	603,906		
少数株主に係る包括利益	291	—	291		

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	第47期		第46期	
	自 2012年4月1日 至 2013年3月31日	自 2012年4月1日 至 2013年3月31日	自 2011年4月1日 至 2012年3月31日	自 2011年4月1日 至 2012年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,653,000	1,966,163		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,958,769	△5,220,888		
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,152,513	121,645		
現金及び現金同等物に係る換算差額	15,959	△14,338		
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△137,296	△3,147,418		
現金及び現金同等物の期首残高	3,192,274	6,339,692		
現金及び現金同等物の期末残高	3,054,978	3,192,274		

連結株主資本等変動計算書 (自 2012年4月1日 至 2013年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額					少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計		
2012年4月1日残高	2,368,650	1,248,849	17,784,278	△27,464	21,374,313	55,507	△1,316	△588,700	△10,777	△545,288	—	20,829,025
連結会計年度中の変動額												
剰余金の配当			△220,195		△220,195							△220,195
当期純利益			1,072,258		1,072,258							1,072,258
自己株式の取得				△41	△41							△41
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						78,060	1,316	—	9,107	88,485	291	88,777
連結会計年度中の変動額合計	—	—	852,062	△41	852,021	78,060	1,316	—	9,107	88,485	291	940,798
2013年3月31日残高	2,368,650	1,248,849	18,636,341	△27,505	22,226,334	133,568	—	△588,700	△1,669	△456,802	291	21,769,823

財務情報 (個別財務諸表)

個別貸借対照表 (要約版)

(単位：千円)

資産の部	第47期 2013年3月31日現在	第46期 2012年3月31日現在
流動資産	10,185,975	9,550,962
固定資産	29,684,069	22,323,294
有形固定資産	22,470,687	16,303,351
無形固定資産	105,627	95,027
投資その他の資産	7,107,754	5,924,915
資産合計	39,870,045	31,874,256

(単位：千円)

負債の部	第47期 2013年3月31日現在	第46期 2012年3月31日現在
流動負債	6,393,259	7,810,080
固定負債	12,301,157	3,814,817
負債合計	18,694,416	11,624,897

(単位：千円)

純資産の部	第47期 2013年3月31日現在	第46期 2012年3月31日現在
株主資本	21,630,761	20,782,552
資本金	2,368,650	2,368,650
資本剰余金	1,248,849	1,248,849
資本準備金	1,245,615	1,245,615
その他資本剰余金	3,234	3,234
利益剰余金	18,040,767	17,192,517
利益準備金	321,703	321,703
その他利益剰余金		
特別償却準備金	1,683,391	380,850
圧縮記帳積立金	74,961	89,648
新造船建造積立金	—	3,700,000
別途積立金	12,300,000	11,900,000
繰越利益剰余金	3,660,711	800,314
自己株式	△27,505	△ 27,464
評価・換算差額等	△455,132	△ 533,193
その他有価証券評価差額金	133,568	55,507
土地再評価差額金	△588,700	△ 588,700
純資産合計	21,175,628	20,249,359
負債純資産合計	39,870,045	31,874,256

個別損益計算書 (要約版)

(単位：千円)

	第47期 自 2012年4月1日 至 2013年3月31日	第46期 自 2011年4月1日 至 2012年3月31日
営業収益	42,207,835	41,370,387
営業費用	40,497,355	39,809,643
営業利益	1,710,479	1,560,744
営業外収益	130,507	78,084
営業外費用	143,374	91,495
経常利益	1,697,612	1,547,332
特別利益	603,518	352,700
特別損失	494,262	1,057,328
税引前当期純利益	1,806,868	842,703
法人税、住民税及び事業税	1,000	234,000
法人税等調整額	737,423	154,126
当期純利益	1,068,445	454,576

トピックス

1 新造船“シルバーエイト”就航

2013年3月12日に内海造船株式会社瀬戸田工場（広島県尾道市）にて新造船“シルバーエイト”が進水いたしました。本船は八戸-苫小牧航路を運航しているフェリー“べが”（1990年12月就航、総トン数 6,698t、車両積載能力 トラック67台（12m換算）乗用車20台、旅客定員600名）の代替船で6月30日より就航となります。

コンセプトは「やすらぎ」と「だんらん」、船名の“シルバーエイト”は当航路愛称の「シルバーフェリー」と航路起点である「八戸港」にちなんで命名されました。全席指定のゆとりあるスペースと「和」のテイストを基調にしたシックな空間をお楽しみいただけます。

船舶概要 **総トン数** 9,450 t **全長** 142.6m **航海速度** 20.5ノット **車両積載能力** トラック68台(12m換算)、乗用車30台
旅客定員 全席指定：600名
 特等室：8名（2名×4室）、1等室：100名（2名×10室、4名×20室）、
 2等室寝台室：80名（2名×40室）、2等室：368名、ドライバーズルーム：44名（1名×44室）



2 新造船“GLORIOUS JUPITER”竣工

新造船“GLORIOUS JUPITER”が、2013年2月7日に株式会社新来島どっく（広島県東広島市）にて進水、5月9日に竣工いたしました。本船は海外不定期航路に投入、主にアジア水域内でのばら積み貨物（石炭・鉄鋼スラグ・ドロマイト等）および鉄鋼製品を輸送しております。本船の船倉は、鉄鋼製品の積場に適したセミボックスシェイプ型※を採用、また、CO₂消火設備を搭載し、今後需要の拡大が予想されるバイオマス関連の貨物輸送にも対応しており、幅広い分野での活躍を期待されています。

船舶概要 **総トン数** 16,088t **全長** 157.03m
積載重量トン数 26,091t



※全ての船倉が箱型になっていることをボックスシェイプ型と呼び、一部の船倉のみ箱型になっている場合はセミボックスシェイプ型となります。

豆知識

「進水式」ってなにをするの？

船を造っていく過程で、もっとも華やかなのが「進水式」です。船が進水するとき、古くからいろいろな儀式が行われてきました。進水する船を清めるためにワインが使われたこともあります。最近ほとんどシャンパンが使われています。

進水式では船から支綱（しこう）と呼ばれるロープを1本のばし、これにシャンパンのピンをつなげます。このロープを斧で切ると、ピンが船首にあたって割れ、船は船尾から海に向かってゆっくりと動きだします。実際にはロープ1本で船が止められているのではなく、トリガーという装置が船を滑らないようにしています。支綱が

切られると同時に、トリガーが外されて、船が滑りだすのです。五色のテープや風船が舞い、プラスバンドの演奏が行われることもあり、数万トンの大きな船が水に浮かぶ瞬間は感動的です。

ただし、船台から船を滑らせて進水させるのは、20万重量トンくらいまでが限度で、それ以上大きな船は、ドックで造られ、進水時はドックに注水して船を浮かせます。船が浮いたらドックから海へ引きだせばよいので、大きな船でも安全に進水させることができます。

「海と船なるほど豆事典」（公財）日本海事広報協会より一部引用

北海道の「海の玄関」として 国内物流に大きく貢献

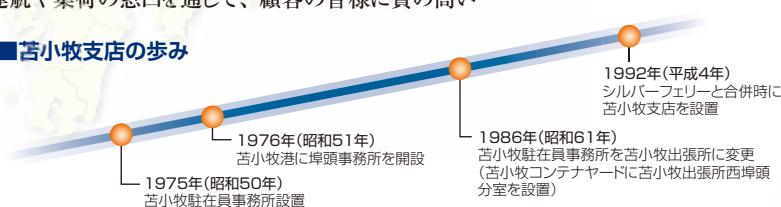
～大型RORO船とフェリーで 充実した海上輸送サービスを提供～

苫小牧港は北海道の中心である札幌市に太平洋岸で最も近い港湾です。新千歳空港にも近接しており、地理的に利便性が高く、北海道の海の玄関として、フェリー、RORO船、内外航定期コンテナ船などの航路を有しています。また、工業港湾、エネルギー港湾などの国際拠点港湾としても大きな役割を果たしています。

当社の苫小牧支店は1975年（昭和50年）8月に苫小牧駐在員事務所として設立されました。現在は苫小牧支店と苫小牧フェリーターミナル内に事務所を設置しており、苫小牧―八戸で毎日4往復するフェリーや苫小牧―常陸那珂のRORO船定期航路の集荷業務、苫小牧港積みのブッキングおよび荷役の現場立会いを担い、北海道から名古屋、大阪までを結ぶ紙専用船“神川丸”や“王公丸”の運航にも携わっています。また、フェリーターミナル内の事務所では、フェリーの予約受付、乗船券の発券、乗船時のご案内、本船が安全に入出港するための各種作業を行っています。

苫小牧支店は総勢13名のスタッフで運営され、船舶の運航や集荷の窓口を通じて、顧客の皆様には質の高いサービスを提供することができるよう日々努めています。北海道の最重要拠点である苫小牧と東北、北関東を結ぶ船が「モノ」と「暮らし」の架け橋として活躍しています。今後もスタッフ全員で皆様のニーズに応え続けていくために全力を尽くしてまいります。

■苫小牧支店の歩み



苫小牧支店

住所 〒053-0003 北海道苫小牧市入船町3丁目3番12号

TEL (0144)34-5011

FAX (0144)34-5013



Y 港



祝 50周年 苫小牧港

苫小牧港は、北海道の南西部太平洋岸に位置し、臨港地区1,823ha、海岸延長24km、港湾区域14,300haの広大な区域を有する国際拠点港湾です。苫小牧港周辺は、樽前山の噴出物で覆われた痩せ地であり、農業には不向きな土地柄であったことから、平坦で広大な土地を利用して、港湾を核とした工業開発を進めるべく、1951年(昭和26年)に砂浜を掘り込む港造りが始まり、1963年(昭和38年)には待望の第1船を迎えました。本年は、その記念すべき年から開港50周年の節目にあたります。

現在の苫小牧港は国内の主要港ばかりでなく、北米、東南アジア、中国、韓国を結ぶ多数の定期航路を持ち、年間貨物量1億トンを扱う、北日本最大の港湾となっています。



船 航路



祝 40周年 八戸 - 苫小牧

1973年(昭和48年)4月25日に八戸-苫小牧航路「シルバーフェリー」が開設され、本年就航40周年を迎えました。同航路は北海道と本州を結ぶ物流・観光の大動脈として、さらには地域の生活を守るインフラとしての役割を担い、航路開設時より、快適で利便性のある輸送サービスを目指してきました。昨年4月に就航した“シルバープリンセス”につづき、本年6月には新造船“シルバーエイト”を投入いたします。今後も東北・北海道のさらなる観光促進につなげてまいります。



【運航スケジュール】

	八戸 → 苫小牧	苫小牧 → 八戸
シルバープリンセス	08:45 16:00	21:15 翌日04:45
シルバークイーン	13:00 20:15	23:59 翌日07:30
べにりあ	17:30 翌日01:30	05:00 13:30
シルバーエイト	22:00 翌日06:00	09:30 18:00

常陸那珂 - 苫小牧

首都圏、北関東-北海道経済圏を最新鋭大型RORO船が20時間の安全航海でシャトルサービスいたします。

【運航スケジュール】

		常陸那珂 → 苫小牧	苫小牧 → 常陸那珂
ほっかいどう丸	早便	23:00 20:15	23:45 19:30
勇王丸	早便	23:00 20:00	23:00 19:30
まりもましう	遅便	25:15 22:00	25:30 21:45



株式の状況 (2013年3月31日現在)

◀ 発行済株式の総数 29,359,236株
(自己株式165,764株を除く)

◀ 株主数 2,589名
(前期末比 99名増)

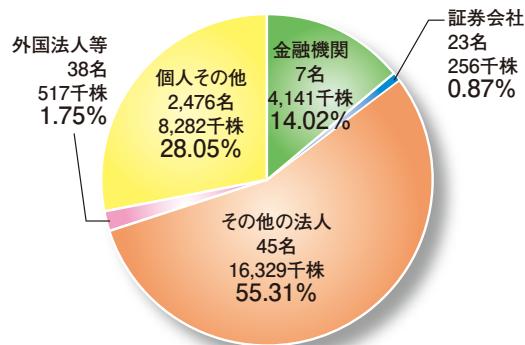
◀ 大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	株式数 (千株)	持株比率 (%)
川崎汽船株式会社	14,040	47.82
東京海上日動火災保険株式会社	1,840	6.27
株式会社損害保険ジャパン	1,080	3.68
三井住友海上火災保険株式会社	598	2.04
川崎近海汽船従業員持株会	462	1.57
北海運輸株式会社	350	1.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	341	1.16
株式会社栗林商会	304	1.04
株式会社ダイトーコーポレーション	278	0.95
日本証券金融株式会社	152	0.52

◀ 株価及び株式売買高の推移 (2013年4月末現在)



◀ 株式の所有者別状況



表紙の船

The Ship on the Cover

“ほっかいどう丸”

本船は内海造船株式会社因島工場にて建造され、本年2月より常陸那珂一苫小牧航路で就航されています。現在の“ほっかいどう丸”は4代目にあたり、初代(1976年建造)は貨物フェリーとして東京一苫小牧航路に就航していました。また、3代目“ほっかいどう丸”は東京一苫小牧を20時間で結び、当時国内最速の貨物フェリーとして活躍していました。

当社の伝統ある船名を引き継いだ4代目“ほっかいどう丸”は、新型電子制御エンジンの採用をはじめ、時代のニーズにあわせた環境への配慮と経済性を兼ね備えています。最新鋭の省エネ船は北海道と関東を結ぶ大動脈として活躍中です。



初代ほっかいどう丸

船舶概要

総トン数 11,386t

全長 173.08m

航海速度 22.6ノット

車両積載能力

トラック160台 (12m換算)、

乗用車100台

会社概要 (2013年6月27日現在)

社名	川崎近海汽船株式会社 KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA,LTD.	役員	代表取締役社長 石井 繁礼 専務取締役 上杉 芳人 常務取締役 木村 孝史 常務取締役 赤沼 宏 常務取締役 高田 雅彦 取締役 友井 彰彦 取締役 杉本 利文 取締役 寅谷 剛 取締役 小山 卓三 取締役 川崎 誠司 監査役 島村 康雄 監査役 (非常勤) 堤 則夫 監査役 (非常勤) 生和 勉 監査役 (非常勤) 鈴木 修一
設立	1966年(昭和41年)5月1日		
本社	東京都千代田区霞が関一丁目4番2号		
資本金	23億6,865万円		
代表者	代表取締役社長 石井 繁礼		
従業員数	385名(2013年3月31日現在)		
主な事業内容	海上運送事業 海運仲立業 港湾運送事業および倉庫業 貨物運送取扱事業 海運代理店業		

運航船舶 (2013年3月31日現在)

※他社との共有船

	船名	船種	総トン数	重量トン数(k/t)	主機馬力(kw)	航海速度	建造年月	就航状況
社船・共有船	ほっかいどう丸*	RORO	11,386	6,890	D-14,940	22.6	2013年2月	内航定期船
	やまさくら	石炭専用	17,658	15,000	D-5,180	13.5	2013年1月	内航不定期船
	シルバープリンセス	フェリー	10,536	4,724	D-7,200×2	20.5	2012年4月	フェリー
	JP TSUBAKI*	石炭専用	7,287	6,600	D-3,250	12.0	2008年11月	内航不定期船
	JP COSMOS*	石炭専用	7,287	6,600	D-3,250	12.0	2008年2月	内航不定期船
	美津川丸	石灰石専用	3,497	5,800	D-2,450	12.5	2007年10月	内航不定期船
	第二ほくれん丸	RORO	13,950	6,598	D-17,840	23.5	2006年7月	内航定期船
	ほくれん丸	RORO	13,950	6,597	D-17,840	23.5	2006年6月	内航定期船
	神川丸	RORO	13,018	6,387	D-15,900	21.0	2002年10月	内航定期船
	勇王丸*	RORO	9,348	5,335	D-12,640	20.7	2001年6月	内航定期船
	シルバークイーン	フェリー	7,005	3,455	D-8,826×2	20.7	1998年3月	フェリー
須寿川丸	ブッシャーバージ	94	3,918	D-1,764	9.8	1992年7月	内航不定期船	
社船・共有船計		12隻	115,016	77,904				
定期備船		41隻	357,192	498,331				
運航船舶合計		53隻	472,208	576,235				

川崎近海汽船株式会社

東京都千代田区霞が関一丁目4番2号 (〒100-0013)

TEL:03-3592-5800 FAX:03-3592-5911

当社IRサイトをご活用ください。

当社ホームページでは、プレスリリースや決算情報等を掲載しております。ぜひご活用ください。

<http://www.kawakin.co.jp/ir/index.html>

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 同上総会権利行使株主確定日 3月31日
- 配当金受領株主確定日 3月31日
- 中間(第2四半期末)配当受領株主確定日 9月30日
- 基準日 上記確定日のほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
- 郵送物送付先(電話照会先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
- 公告方法 電子公告により行います。公告掲載URL (<http://www.kawakin.co.jp/>)
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 配当金計算書について 配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。確定申告をなされる株主様は大切に保管願います。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いいたします。



古紙配合率70%再生紙を使用しています